

—— チェルノブイリに思いをよせて ——

ポレーシエ

「チェルノブイリ奨学基金」が設立されました！！

99. 4. 25. 中日新聞朝刊より

ウクライナ国の汚染地域では、放射能の被ばくによる病人が増え続けているにもかかわらず、安全な暮らしを求めて医師たちが転居してしまい、その数が減り続けています。一方、親が被ばくの後遺症により発病したり病死したりして、経済的な理由から進学や進級を断念しなければならない子ども達が増加しています。



奨学金制度の新設に期待を寄せる田中良明代表（中央）ら一名古屋市昭和区の事務所

被災地から医師育て
中部代表が基金寄付
奨学金新設へ

私たちは、このような被災地の状況を改善するために、医師達を育てる救援が必要であると考え、「チェルノブイリ奨学基金」の創設を決定しました。

今秋（9月）の入学シーズンに合わせ、現地の新聞紙上や学校などでこの「奨学基金」制度の存在を一般公開し、医科大学・医学専門学校・教育大学などの入試合格者から応募を受け付けます。そして、成績や家庭の状況などを参考にして5～6人程度を選び、一人につき毎月5,000円程度を限度に、卒業するまで支給する方針です。（この金額は、現地の労働者にとって「平均的な月収に近い額」であり、学費だけでなく修学中の生活費も賄うことができるため、奨学生は安心して学業に専念することを保証されます。）

交通遺児のための「あしながおじさん」の制度のように、「チェルノブイリ奨学基金」が、日本のたくさんの人々に支えられ広がっていくことを願っています。

私たち「救援・中部」は、奨学金の支給対象者が決まりましたら、必ず支援者の方々に紹介し、顔と顔の見える交流を進めます。（詳しくは、次ページを参照願います。）（J）

〒466-0822 名古屋市昭和区楽園町137 1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：田中良明

郵便振替：00880-7-108610

TEL/FAX：052-836-1073（月・水・金 10：30～15：30）

いよいよ「チェルノブイリ奨学基金」による奨学金給付事業が始まります。この事業のあらましは次の通りです。

資金	すでに確約されている1千万円の寄付をベースにする。広く寄付を募って、資金の上積みを目指す。
給付対象	シトーミル州内に住む原発事故被災者および事故処理作業員本人またはその子どもで医学・医療・あるいは教育関係の高等教育機関に進学する者。
給付者数	毎年、5~6名。(選考される学生の給付条件により多少変化する)
給付額	生活費を含め、学業を継続することができる額。学費が有料のところと無料のところがあり、自宅通学か下宿かということもあって、一律の額にはならないが、平均で月40ドル程度。
給付期間	入学から卒業まで。
選考方法	選考委員会を設けて選考する。当面の選考委員は、キリチャンスキー；ドンチエバ；コセンコ(以上「移住基金」、アルチュフ(保健省)、ヴァジンスキー(教育委員会)、田中；竹内(以上「救援・中部」)。募集・選考作業の実務は、ウクライナ側が行う。
選考時期	今年度は入学生の中から選考する(7月)。来年度以降については、今年度の様子を見て、入学前に選考することを検討する。入学後選考のほうが事務的には簡単であるが、生活困窮者の進学を支援するというこの事業の趣旨には入学前選考のほうが合致する。
事業期間	一応、10年間を目処とする。この場合、奨学生の新規採用は7年目で打ち切りになる。寄付の集まり具合がよければ、事業期間は延長される。 (里親募集中！ 2,000円/1口。何口でもOKです。)

チェルノブイリ・スタディ・ツアー参加者募集中

締め切りは6月末！希望者はお早めに！

- 日程 9月5日(日)出発、9月14日(火)帰国(途中ウイーン2泊)
- 参加費用 266000円(航空運賃、ビザ代、宿泊費、現地交通費など一切を含む。)
- 参加希望者は以下の事項を記入の上、葉書でお申し込み下さい。

氏名、性別、年齢、職業、住所、電話(又はFAX)番号

- お申し込み先：電話・FAX 052-836-1073

466-0822 名古屋市昭和区楽園町137、楽園アパート1-10

ウクライナを知ろう 連続講座

第5回 「ウクライナ料理を作って食べましょう」 (99.5.15 於/名古屋国際センター)

前回まで地理、歴史、政治経済、原発事故についてと固い内容が続いたので、五回目のウクライナ講座は、“ゲストと一緒にウクライナ料理を作って、楽しくおいしく食べましょう！”がテーマでした。

メニューはボルシチ（アンドレイ君担当）、ワレニキ（ウクライナ風水餃子、タチアナさん担当）、デルミ（ジャガイモのパンケーキ、イリーナさん担当）の3品。22名の参加者は料理ごとに3つのグループにわかれて、ゲストの方々から説明を聞きながらウクライナ料理に挑戦。料理に不馴れな男性も、エプロン姿でウロウロ、ニコニコと楽しそうでした。

ボルシチはスペアリブの煮込みに時間がかかるので、始まる2時間前から準備をしての本格派スープ。ていねいにアクを取り、ウクライナを思い出させるスパイスも入れ、細心の注意で材料を加えて仕上げていくアンドレイ君はなかなかの料理人。彼のおばあさんから伝えられているボルシチはとてもおいしく大好評でした。



イリーナさんのデルミは、なまのじゃがいもをすりおろし、卵を加え、塩で味をととのえて油を引いたフライパンで焼きます。これがあのいつものジャガイモ??という、もちもちとした食感が忘れられず一度食べたらファンになること請け合いです。

お好み焼きのような感じで、子どものおやつにも…。

ウクライナのそれぞれの家庭に伝わるおいしい料理を味わう、貴重な、幸せなひとときと、料理を通して、はるかなウクライナの大地と人々を身近に感じることができました。ゲストの皆さん、ありがとうございました。

次回のウクライナ講座は6月19日(土、1:30より)、「ウクライナの人々の暮らし」(国際センター)です。お誘い合わせの上、ご参加ください。



タチアナさんのワレニキは、粉をこねて皮を作り、中にカッテージチーズを入れたものと挽肉を入れたものとの2種類を教えてくださいました。ゆでたてのアツアツを、チーズ入りにはジャムをかけて、挽肉入りのほうはバターやマスタードを添えて食べるとおいしいのです。



ウクライナ⇔日本<情報ホットライン> 「キリチャン早く良くなってね！」編

4/6 昨日、航空便で領収書を受け取りました。ちょうど良いタイミングです。という日→ウ のは、今政府への完了報告書を作っているところだからです。こちらの政府は、「領収書はすべて原本」であることを要求するようになりました。煩雑な事務処理に対する協力に感謝します。ところで、キリチャンスキーさんの健康が良くないと聞きました。血圧220というのは危険な信号です。足の痛みの病名はわかりましたか？ これらは、しばしばチェルノブイリ被災者に見られる病状なのでとても心配です。とにかく良い医者に診てもらわねばなりません。

4/14 粉ミルクは、州立小児病院へ1,500G分、州立孤児院へ3,998G分、市立小児病日→ウ 院へ46,828G分贈りました。早速、州立孤児院の院長さんが事務所にやってきて、ていねいにお礼を言って帰りました。

キリチャンは、昨日診断センターに行き、診察を受けました。足の痛みは取れず、医師の診察が必要になったのです。今日、彼は背部のレントゲンを取ることになっています。結果が思わしくなければ、治療のために入院します。左足の神経が衰えたようです。事実上、5月までは事務所に来ることができないでしょう。

4/24 (4月26日の原発事故13周年記念日に先立ち、「事故処理作業協会」から「救日→ウ 援・中部」代表宛に、式典への招待状が届きましたが、残念ながら出席できず、ウクライナ駐在員の竹内さんがメッセージを代読しました。)

事故処理作業協会代表 チュマク様

1999年4月24日

「チェルノブイリ救援・中部」代表 田中良明

本日の式典に招待いただいたにもかかわらず、出席できないことをお詫びいたします。チェルノブイリ原発事故に自己犠牲的精神で立ち向かい、被害の拡大をくい止めた「消防士・警官・兵士およびすべての人々」の勇氣ある行為は、全世界の人々によって永遠に記憶されるべきです。今回のモニュメントの建立はそのために貢献するでしょう。貴協会がこれからも困難にめげず自己処理作業者の相互扶助のため活躍されることを期待します。

今秋にジトーミルを訪問することをお約束して、私の短いメッセージを終わります。



4/26 4月24日に、消防局の協会のモニュメントの除幕式がありました。あなた方の日→ウ 継続的な援助が、たくさんの人々の記憶に残り、私達もとてもうれしかったです。

5/19 消防署への貨物の発送ありがとうございます。車椅子について質問があります。日→ウ どこに配分すれば良いですか？ こちらに任せていただけますか？ 今日、キリチャンが50日ぶりに事務所に来ました。彼はだいぶ良くなりました。彼の病氣中、日本の友人達の温かい心遣いにより、彼の心はとても温められました。

5/20 車椅子の配分は、あなた方の判断に任せます。ただし、最終的な結果は知らせて日→ウ ください。キリチャンが事務所に現れたというのは、グッドニュースです。サナトリウム滞在中に完全に健康を取り戻すよう願っています。(次号に続く。)(J)

竹内さんのウクライナ便り

(救援・中部キエフ駐在 竹内 高明)

<99.5.19>

・ウクライナの人口は1989年5200万人であったが、今年4月1日現時点では4998万人。専門家は原因を、生活水準の低下に伴う出生率減少と死亡率増加のためとしている。2002年までにさらに200万人の人口減少が見込まれている。

(「イズベスチャ・ウクライナ版」5・15号)

・世論調査：

「チェルノブイリに関連した問題のうち、あなたが最も心配なのはどれですか？」

事故の結果が環境(生態系)に与える影響...33% (選べる回答は2つ。1200人回答)

事故の結果が人々の健康に与える影響...59%

「石棺」の現状...21%

その他...1% 答えにくい...5%

操業中の1、3号炉の安全性...32%

この質問にはまったく興味がない...2%

「原発による発電は今後どうすべきか？」 (1200人回答)

縮小すべき...22%

増加すべき...12%

現状を維持すべき...43%

答えにくい...24%

(「日々新聞」5.14号)

「過去2年間、あなたの地域で以下の問題の解決状態はどう変化しましたか？」

(16~70歳の2002人回答)

	悪化した	変わらない	良くなった	答えにくい
働き口の保障.....	88%	8%	1%	3%
貧困層の社会的保護.....	79%	13%	3%	5%
医療サービス.....	78%	15%	3%	4%
役人の横暴.....	60%	22%	1%	17%
犯罪件数.....	53%	27%	10%	10%

(「同4.29号)

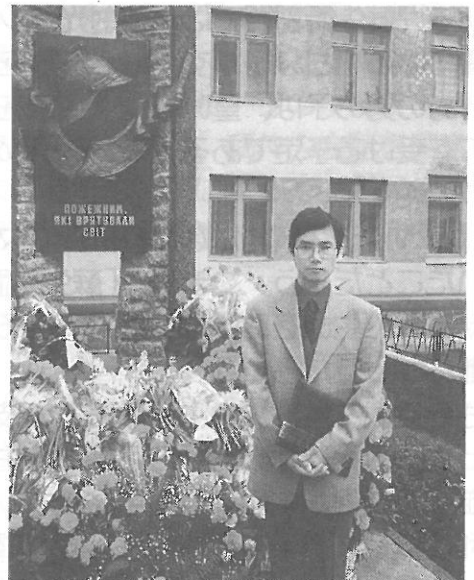
・ウクライナの全労働者の71.8%の今年3月の給料は195グリナ(約50ドル)以下であった。98年の月平均名目賃金は153.5グリナであった。この年に名目賃金は7.2%上昇。しかし公の為替レートによれば、ウクライナの月平均名目賃金は97年の76.9ドルから98年の62.7ドルに減少した。

(「イズベスチャ・ウクライナ版」5.18号)

●今は6月から始まる(しかし家庭の事情で5月中に受けたいという学生が何人もいる)学年末試験の準備で大変です。試験問題自体を学生の人数分(といっても一学年10人くらいですが)作らねばならず、私は今学期4科目受け持たされているので。

この頃のキエフは雨ばかりで肌寒く(10℃以下の日もある)、異常な天気です。おかげでカシタンの花はいつもより長く咲いているような気がします。

「ジュノーの会」の4月末のキエフ訪問の際、わたしはアレクサンドル・シラター氏(注;ポレーシエ前号「心にとめていてもらいたい」筆者)に会いました。今のところ健康状態はまずまずとのことでした。それから血液病のミコールカ君(同号参照)にも彼の自宅で会いました。学校には行けず、自宅に週2回学校の先生が来てくれるということでした。



日本の友人たちの援助とともに (ウクライナ語翻訳 河田いこひ)

シトーミルチナ (ウクライナの新聞) 1999年2月5日より

『「移住基金」のリーダーであり、また「ウクライナ・ジャーナリスト連盟」の州組織専任秘書である V. S. キリチャンスキーが、日本の組織「チェルノブイリ救援・中部」の代表者と知り合ったその日は、我々にとって特別な日となった。これは決して誇張ではない。また我々は、このことで彼に対して大いに感謝している。』州立小児病院院長・ウクライナ名誉医師のヴェ・エフ・マルチェンコはこのように語った。

『それは、1990年のことだった。そしてそれ以来、当院ことにその血液部門と新生児蘇生術部門は、日本の友人たちの援助を受け続けている。彼らは、病気の子どものために、某国(複数)から提供されたような、期限切れの医薬品や旧式の機器ではなく、最新の設備・注射器・装置・薬剤などをくれた。そして、あなた方はそれらすべてをここで見る事ができる。』

「ガイド役」を買って出たのは、病院の医療班長(注:副院長)オレクサンドロ・ヤコヴィッチ・グサクであった。我々(取材班)は、それらの部門に行く。途中でグサクは院長の話に次のような補足をした。

『日本人は、極めて実務的な国民である。彼らは見せかけの施しなどはしない。あらかじめ我々の要求を知り、録音したり写真を撮ったりして、日本国内でキャンペーンをする。その上で、援助のための行動を起こす。組織の代表者は、彼らが贈呈した設備がその後最大限有効に使用されているかどうかにも必ず関心を示す。』

荷物は、税関部長ヴェ・ア・ラボシチュクの援助により、目的地までスムーズに最小の期日で通過し、税関の管理のもと病院の特別保管庫に保管される。

新生児蘇生術部門では、放射光ランプ付きの蘇生術台上に寝ている小さな子がすぐにこちらを見る。

『あの男の子は、重い複雑な疾患を持った乳児としてのケアを受ける予定である。』と部門長のイ・ヴェ・シチュルが説明する。

『このような装置がなければ、我々は悪い方向に導かれていたことだろう。つまり、「蘇生処置を必要とするすべての新生児の生命を助ける事ができる」というようなことは難しかっただろう。』

さらに我々は、次のような日本の技術の驚異を見せてもらった。心臓や呼吸器系の活動力の主要なパラメーターを制御する装置・内用薬点滴用注入ポンプ・血液細胞の酸素飽和度測定装置・未熟児用保育器・終末期肺用人工換気装置(人工呼吸器)・顕微鏡。これらの技術はすべて高価であ

Medicina

3 ДОПОМОГОЮ ЯП

— День, коли керівник Фонду передав, відповідальний секретар обласної організації Спілки журналістів України В. С. Киричанський познайомив із представниками японської організації «Чернобиль-Тобу», став, без перебільшення, знаменним для нас і за це ми щиро вдячні йому, — почав свою розповідь головний лікар обласної дитячої лікарні, заслуженої лікар України В. Ф. Марченко. — Було це в дев'яностому році, і відтоді наш заклад, особливо відділення гематологічне й реанімації новонароджених, — під патронатом японських друзів. Вони дарують для хворих дітей не просторічнішим ніж старі апарати, як деякі країни, а найсучасніше обладнання, шприци, системи, медпрепарати. Утім, ви можете все це подивитися.

Роль «гіда» взяв на себе начмед лікарні О. Я. Гусак і ось ми пізнаємося в ці служби. А по дорозі Олександр Якович доповнило розповідь, голововуючи — Японці — народ дуже прагматичний. Презенти для годиться вони не роблять. Спочатку прислухаються до наших потреб, роблять записи, фотографії, які демонструють у Японії. Ну й, виходячи з цього, збирають внески для допомоги.

Представники фірми потім обов'язково цікавляться, чи використовується й наскільки ефективно подаровані ними обладнання. Після розмитнення вантажу, яке, до речі, з допомогою українцівка відділу митної служби В. А. Рабошук проходить без «танців», в мінімальні строки, речі зберігаються на спеціальному складі лікарні, під митним контролем.

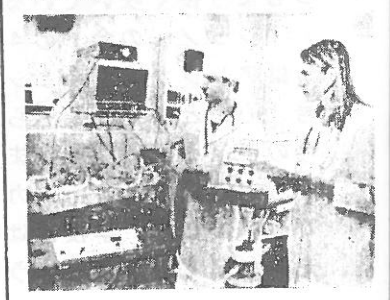
У відділенні реанімації новонароджених відразу опривертає увагу критично мала, як лежить на реанімаційному столі з лампою промислового світла.

— Він призначений для виходження немовлят із складною патологією, — пояснює завідувач відділенням І. В. Шур, — Без такого обладнання нам довелося б кесарю: наварді чи зуміли зберегти життя всім новонародженим, які потребували реанімаційного втручання.

А ще нам покажуть техніку з Японії, об'єктивне контролює основні й, «строго» діагностичні сервіс й діагностичні системи; інфузійний насос для дозозабір, який автоматично регулює кількість введення ліків; машини, які визначають частоту серця, тиск крові; інкубатор для виходження недоношених дітей; апарати для моніторингу життєвих показників, мікрокамери. Довго, що всі ці технічні апарати.

— У перспективі плануємо співпрацю з японськими спонсорами й щодо фінансування встановлення телекомунікаційного зв'язку для лікарні та реанімації для обстеження зупинки мозку, на наявність перinataльної інфекції, — поділилися намірами І. В. Шур.

З ініціативи головного лікаря В. Ф. Марченка кілька спеціалістів лікарні побували



るということをつけ加えておきたい。

『将来、我々は日本のスポンサーとともに、病院間のテレコム結合（注：病院間の画像転送による遠隔地診断）および、出産時に感染した乳児の検査のための試薬の財政的基礎に関しても共同研究する予定である。』と医療班長は語った。

名誉医師ヴェ・エフ・マルチェンコの指導で、何人かの専門医が日本の病院での研修に行った。

『研修には緊張させられたが、興味深いものだった。』と新生児蘇生術医のイ・オ・グメンチュクは語った。『複数の社会団体との会見もあった。私はある学校を訪ねて、大変感動させられたのだが、児童たちが自分たちの昼食をけずって500ドルを貯め、（州立小児）病院に薬をプレゼントしてくれたのだ。日本の学童たちは、自分たちと同世代のウクライナの子どもたちの問題で心がいっぱいなのだ。』

（日本を訪れた）わが国の専門家たちは、日本人たちに良い印象を与え続けたようだ。このことは、これらの訪問の後にも新しい設備が援助されるようになっているから。「チェルノブイリ救援・中部」の代表者たちが来訪する際には、代表団スタッフに必ず医療関係者が含まれており、彼らは装置の使用結果に関心を持つだけでなく、現場での指導も行っている。特に、腫瘍にかかった子どもの塗抹標本について助言があった。

「移住基金」には、毎年クリスマスに、日本の子ども達からウクライナの病気の子ども達へ、彼らがいつも待ちこがれているクリスマス・カードが届くことも興味深い。

まさに、日本からの設備は、当病院の医療スタッフが、「乳児（一才児）の先天性発達障害を矯正する」という画期的な段階から、外科センターの医療をはじめめることを可能にした。ここでは、若い専門家たちは、心臓以外のすべての異常を取り除くことができる。

『このように、我々は「チェルノブイリ救援・中部」の適切な援助に大いに感謝している。』と（州立小児）病院の院長であり、州議会の医療関係者グループのリーダーでもある、ヴェ・エフ・マルチェンコは、我々の会話を興奮気味に締めくくった。まさにあの装備によって、重い疾患を持った50人の新生児を死の爪から逃れさせ、生命を与えることができたのだ。

記者：ガリナ・プロニナ

写真：ミハイラ・プイェハ

<写真説明>

（右上）医療班長（副院長）
新生児蘇生術担当医師
（左下）新生児蘇生術部門長
血液病担当医師

グサクさん（右側）と
グメンチュクさん
シチュルさん（左側）と
ザハルチュクさん

УНСЬКИХ ДРУЗІВ



и на стажуванні в клініках
пониї.

— То була напружена й
ікава робота, — розпові-
в реанімаціолог-неонатолог
О. Гусак, — Заступа-
в ми й з громадськими
організаціями, Юбував я в
ікаві, надзвичайно збору-
юся, що діти зирали, від-
давши від спільних силки,
100 доларів і переслали лі-
прі, Уполицькі школярі ду-
се пропонується проблема
і своїх українських ро-
вників.

Видно, наші спеціалісти спра-
дили на вищій добрі вряту-
в. Бо ж писав ця візита по-
дого надодати нове обладнан-
я. Під час приїзда представни-
к «Чернобыль-Тобі» в складі
співної обробки і лікарі,
ні не просто відслідкує резу-
льтати виконання опера-
цій, а й надають практичну
спомогу. Зокрема, консуль-
тації щодо маляції дітей, хворих
а онкологією.
Цікаво, що на кожне Різдво
а Фонд переслав віз ліпо-
вої дітвори надодати маля-
ційні відліки українським ді-
тям, маляком, які їх завдан-
я екстремним некають.
Саме обладнання з Яп-
ії, діло зміг, лікарі зі-
арні започаткувати роботу
ісвітнішого центру з корек-
і вроджених над розвитку

в часів першого року жит-
тя. Тут дібні молоді спеці-
алісти усувають усі аномалії,
крім серцевих.

— Отже, ми швидко відкри-
ли за ступень допомоги «Чер-
нобыль-Тобі», — підсумо-
вала свідчовано жану роз-
мову головний лікар, керів-
ник французької медки в об-
ласній реані. Ф. Марче-
нко. — Саме їх обладнання
дає змогу швидко вряту-
вати із лапів смерті й діти
життя 50 новонароджених зі
складною патологією.

Галина ПРОНИНА.

НА ЗНІМКАХ: (праворуч) та
реанімаціолог - неонатолог
І. О. ГУМЕНЧУК; біля реані-
маційного столу заведі-
дником І. В. ШУР та лікар-
реанімаціолог О. В. ЗАХАРЧУК
(праворуч).

Фото Михайла П'ЄХА.

イーゴリ・ヴィターリ・ヴィゴフスキーさん

私は 39 才独身。62 才の母親と 74 才の父親と一緒に住んでいます。1987 年、チェルノブイリ事故の 1 年後に農学校を卒業し、兵役に出て中尉になってすぐ、87 年 9 月に 27 日間 30 人の部下を率いてチェルノブイリ原発に行き除染作業に従事しました。1 日間原発（2・3 号機）の除染をすると後 3 日間は原発から 30Km の村で除染する、という生活でした。原発では、内部や敷地のチリの除去が主な仕事です。事故を起こした 4 号機のそばの建物は事故後ずっと除染されていなかったが、この時初めて屋根のチリを落しました。この時かなりの被曝をしたと思います。公式データでは 0.8 レントゲンと言われましたが、誰も信用していません。

帰宅後から激しい頭痛と吐き気、目眩におそわれました。初め病院では自立神経失調症といわれました。92 年にチストニアと診断され、障害者 2 級と認定されました。血圧が激しく上下し、失神するときもあります。

現在は慢性胆のう炎、慢性胃炎です。94 年に悪性腫瘍で左腎臓を切除しました。又、年 2 回心臓病の治療クールを受けています。

3 カ月前の治療では、注射も食事も総て自己負担だったので、入院を断り通院しました。診断さえも有料でした。事故処理作業員の ID カードを見せても、「今混んでいるから」と断られ、

「お金を出せば来週からでも OK」と言われました。ウクライナでは、チェルノブイリ省も無くなったし（注：緊急事態省に吸収合併された）、最高会議（国会）のチェルノブイリ委員会も解散しました。政府は、チェルノブイリの援助を次第に減らしていく方針のようです。今の自分の健康はチェルノブイリ救援・中部の援助のおかげです。



これは、今年 2 月訪問の際、面談した 11 名の事故処理作業員の一人の記録です（河田）

ふりいといく

学生の頃、ソ連やロシア文学への関心もあって、ロシア語を始めましたが、途中で投げ出してしまいました。50才を過ぎて再び思い立ち、56才の時には、とうとうロシアに留学するまでになりました。

身边を顧みるに、子ども達は成長していましたし、夫とはあまりうまく行っていなかった時でもあり、自分の世界を少し変えたいと思いました。費用は貯金をはたいたり、スーパーのパートやホテルのメイドなどで稼ぎました。

サンクト・ペテルブルグの鉄道駅に下り立ったのは九月の初め、もう秋でした。スベトラーナ・イワノーヴナの家にステイして、ネバ川の向こうにあるペテルブルグ大学に通いました。授業は、文法・会話・発音・講読など、全て現地の先生によって行われました。ロシア文学の講座もあり、それは素晴らしいものでした。

スベトラーナの家は19世紀に建てて以来、一度だけ手を入れたとか。彼女と17才の息子ボーヴァとの母子家庭でした。まかない付きのうえに、夕食代も一日5ドルと決めて私はちゃんと払っていたのに、彼女は私を置いて田舎のダーチャ（別荘）にしょっちゅう行ってしまうのです。仕方がないので自分で食事を作り、他のドイツやスイスの下宿人の面倒までみました。おかげで市場に買い物に行ったりで忙しく、「私はロシアに何しに来たのだらう？」と思いました。しかし、彼女も必死に稼がなくてはならなかったのです。小学校で英語を教え、家でもピアノと英語の塾をやり、下宿人を置き、ダーチャではじゃがいもを一人で作り、それを秋には売るのでした。

息子のボーヴァは私にはよくなつて、話し相手になってくれましたし、映画や買い物にも付き合ってくれました。その彼が、学校に行かなくなり、夜遊びに朝帰り、ついには家出してしまったこともあります。その時、スベトラーナが涙を流しながら私に話しました。「第二次大戦中のドイツ軍によるレニングラード包囲の辛い飢えの中で、弟を亡くした。肉親は他にいない。夫も亡くなった。生活のために必死に働かなければならないのに、誰もボーヴァのことをかまってる人がいない。どうすりゃ良いの？」と。ソ連崩壊後のロシアでは、みんな「生きるのに必死」といった感があり、1993～94年のインフレは人々を大いに苦しめました。



＜ボーヴァと松田さん＞

オバタリアンとして遠慮は恥だからと、招待には片っ端から応じた結果、私は多種多様な人々と知り合いになりました。ノブゴロドへのバス旅行や、中央アジアへの旅行にも参加しました。ヘルシンキやタリンには個人で行きました。そこで久しぶりに清潔で華やかな世界に触れてロシアに帰ってくると、その汚さにショックを受け、思わず涙ぐんでしまうのです。同時にその汚さに安らぎを覚え、この国をこよなく愛してしまっている自分に気づくのです。

ロシア語がなかなか上達しなくて悩んだこともありましたが、きっかり一年で帰国し、そして「チェルノブイリ救援・中部」の事務局で働かせていただいています。ロシアにはその後また行きました。その時、チェルノブイリ事故とその被害者たちの事を、なるべく多くの人々と話すようにしました。でも彼らは現状をよく知らないのです。「気にはなるけれど、生活に追われてそれどころではない」というところです。「救援してくれて、ありがとう」と私に言う人はたくさんいました。

しかし、彼らロシア人も私たち日本人も、自分たちの問題として『チェルノブイリの今』ときちんと向き合う時が来ていると、私は思うのですが…。

（松田 幸枝）

<チェルノブイリ救援・中部の会計報告（1998年度：98年4月～99年3月）>

収入の部			支出の部		
項目	金額(円)		項目	金額(円)	
前期繰越	11,133,806		救援物資関連 (内訳)	小計	15,025,419
救援寄付金 (内訳)	小計	8,547,269		医療機器	4,626,517
	個人(978件)	6,533,247		医薬品	5,449,259
	団体(43件)	2,014,022		救援物資	1,876,463
国際ボランティア貯金交付金	6,560,000			粉ミルク	2,900,000
外務省ODA補助金	0			輸送費	173,180
運営費関連寄付金 (内訳)	小計	4,627,801	特別事業費 (内訳)	小計	6,742,969
	個人(218件)	946,801		事故処理事業者招聘	1,418,532
	団体(16件)	3,681,000		ナロジチ病院暖房設備費	3,110,000
物品売上げ等	305,158			専門家派遣費(第1次)	873,415
預金利子	10,565			専門家派遣費(第2次)	442,511
				専門家派遣費(第3次)	327,673
			移住基金業務委託費など	570,838	
			運営費関連 (内訳)	小計	5,049,321
				郵送通信費(ポレ発送含)	1,246,660
				電話代	470,786
				印刷費(ポレ印刷代含)	606,200
				国内出張旅費	108,750
				会場費	20,175
				会議費	9,783
				消耗品費	131,446
				人件費	1,399,805
				家賃光熱費	569,165
				振込手数料	133,005
				物品購入費	163,821
				広告宣伝費	10,710
				コピー機リース代	24,990
				翻訳料	80,000
				雑費	6,751
				為替差損	15,934
			物品代返金	3,740	
			ボラ貯交付金返還分	47,600	
			総支出	26,817,709	
当年度収入合計	20,050,793		次期繰越し	4,366,890	
収入総額	31,184,599		支出総額	31,184,599	

上記のように報告いたします。不況でもあり、98年度の救援寄付金の大幅な減少が心配されましたが、一件あたりの額は少なくなっていますが、それを件数の増加でカバーしていただき、昨年並みの収入を維持することができました。ご協力に心から感謝いたします。支出の運営費については、引き続き無駄のないように心がけていきたいと思っております。(会計 松田幸枝)

<会計監査証明書> 自1998年4月1日
至1999年3月31日

上記期間の収支計算書ならびに諸帳簿の内容を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明いたします。

1999年5月15日

南 和也 (南)

…………今年もウクライナに向けて救援物資が旅立ちました…………

〈防火服と車椅子 運び屋奮戦記〉

南箕輪村 原 富男

5月11日、事務局のお達しにより、伊那から（岡崎経由）名古屋行きの旅に出ることとなった。ウクライナに送る防火服と車椅子の運び屋をおおせつかったのだ。気軽に引き受けたものの、何の準備もしていない。僕の4トントラックには、4メートル物の丸太がのっているし、僕の工場で預かっていた車椅子（10台）の上には、オガ粉が降り積もっているし、「一体どうすりゃいいんだ」状態なのだった。まず、丸太を下ろし、荷台を掃除して、車椅子の掃除に取りかかる。コンプレッサーでオガ粉を吹き飛ばし、5台ずつ束ねてクレーンで積み込んだ。宙吊りになった車椅子を、工場の隣の畑を耕していた婆さんが不思議そうに見ていた。中央高速から東名を走って岡崎に着いた。岡崎では、農業をしている若い衆の案内で、農協の倉庫に預かってもらっていた防火服を積み込んだ。農協の担当者も若い衆もとても親切で、岡崎でのチェル救の働きの確かさを感じた。

名古屋着は、2時間も遅れた。河田さんと会って開口一番、「やあ～、いろいろあって遅れちゃって～。」こんな時、あいまい語はとても便利だ。楽園アパートの駐車場で、早速積み込み作業を開始。事務所においてあった車椅子と持ってきた車椅子（全部で43台）を、濡れタオルできれいに拭いて箱詰めにする。ペダルが引っかかって箱に入らなかったり、防火服が重過ぎて河田さんが捻挫したり、荷が予想以上に大きくて、ロープを神野（美）さんに買いに走ってもらったり。悪戦苦闘して無事に積み終えたら、時は既に夜9時を回っていた。当日はホテル「楽園」(?)に泊まり、翌朝名港海運に荷を降ろした。名港海運の皆さんのご協力に感謝。名古屋のメンバーが毎回大変な作業をしていることを思うと頭が下がる。いろいろな人の思いを託した救援物資だ。



〈名港海運の皆さん、協力ありがとう〉

無事に、届けウクライナへ！！

事務局だより

若い人達から「ボランティア希望」の問い合わせがよく入る。ただ、それはほとんどが海外（現地）での活動希望で、こちらとしてはなかなか応えることができない。財政的余裕があれば、ジトミルで「移住基金」と共に活躍して欲しいものだが、今のところそうはいかない。今欲しいのは、この日本で、この中部地域でボランティア活動をして下さる人達だ。例えば「フリーマーケット・ボランティア」！。まめにフリーマーケット/バザー情報を収集し、西にフリーマーケットがあると聞けば駆けつけ、東にバザーがあると聞けば売りさばき、救援金や活動資金を稼ぎ出す。そんな人はいないものかと、よく事務局で話をし、夢は「リサイクルショップ」というところまで盛り上がるが、いつも話だけで頓挫する。で、今回は本気で、募集！「フリーマーケットの達人」！。元気のいい、アイデアいっぱいの、機動力と車のある方、是非ボランティアを！

（山盛）

新緑の美しさ、さまざまな花の美しさに、目をとめ心をとめて、その彩りを楽しむ毎日です。いつも「ポレーシェ」を送ってくださりありがとうございます。チェルノブイリの人々の悲しみ、つらさが伝わってきます。「病氣と戦い、苦しんでいる人達が、少しでも元氣を取り戻せたならよいのに」と思います。この惨事を二度と繰り返すことのないよう、私達は努力していかねければなりません。特に、消防士さん達には勇氣と強さを学びます。「もしも私とその立場に立たされたなら、どうするだろうか」と考えさせられます。自分という小さな人間が、少しでも他の人のお役に立てることができたなら幸せに思います。そして、たくさんのものを与えられている自分に気づかせていただき、その幸せに喜びを感じられる人間になりたいと願っています。

私は、男の子三人の母で、長男は高2（17才）になりました。長男は、小学校入学と同時に登校拒否になり、小4～中3まで学校を休み、毎日家の中でぐったりと横になって寝ていました。どんな子になるんだろうか。お友達は皆元氣に外で遊んでいるというのに、我が子はずっと家の中。不安で心は暗く、家の中も暗く、どんどん悪い方向へと流れました。月日が流れ、長男は中学から誰も行かない高校を選び入学。長い間休んでいた子どもとは思えないほど元氣になり、現在に至っています。チェルノブイリの人達に比べたら、私の悩みなんて本当にちっぽけなものです。長男の高校入学と同時に、家の中も明るくなり、笑いが戻ってきました。「子どもが元氣に学校に行く」という普通のことがかうれしく感じられ、ありがたく感じられる毎日です。

ある日のこと、私は「チェルノブイリに募金をしよう」と、近くの郵便局で問い合わせをしました。しかし、局の人達は「わかりません」と答え、私は募金ができませんでした。次の日、朝刊に「チェルノブイリ救援・中部」の連絡先が載っていて驚きました。その新聞を見たときに、神様に「頑張っていて良いことをしなさい。」と言われたような気がしました。今の自分の幸せをほんの少し形にして、「誰か他の人も幸せになって欲しい」という願いを込めて寄付をします。いつまでこの心が続くのかわかりませんが、気負うことなく自然な心で続けていきたいと思っています。皆様のご活躍とお幸せをお祈りいたします。（長野市 C. Y.）

息詰まるような、ほっとするような「ポレーシェ」をいつもありがとうございます。病氣の時に、傍らに誰かがいてくれると安らぎます。そんな心づもりで少々送ります。家族への仕送りみたいなものだと思っています。（知立市 J. I.）

編集後記

- ・オオタカの生息地が見つかり揺れる「愛知万博」。漁業権の補償問題で着工の遅れが必至の「中部新国際空港」。「藤前干潟」の教訓に、早く目覚めよ！愛知県！（J）
- ・チェルノブイリでの生活は、放射能との戦いや病氣の苦しみだけの日々ではないはず。美しい自然やおいしい料理、暖かい人情もある。そんなウクライナも伝えたい。（京）
- ・ナターシャ・グジーさんは、まだ19才だというのに、放射能被災者の語り部として私の前に現れました。「ポレーシェ」も現況を伝える語り部を続けていきます。（美）